

愛知県の多文化共生社会実現に向けた取組



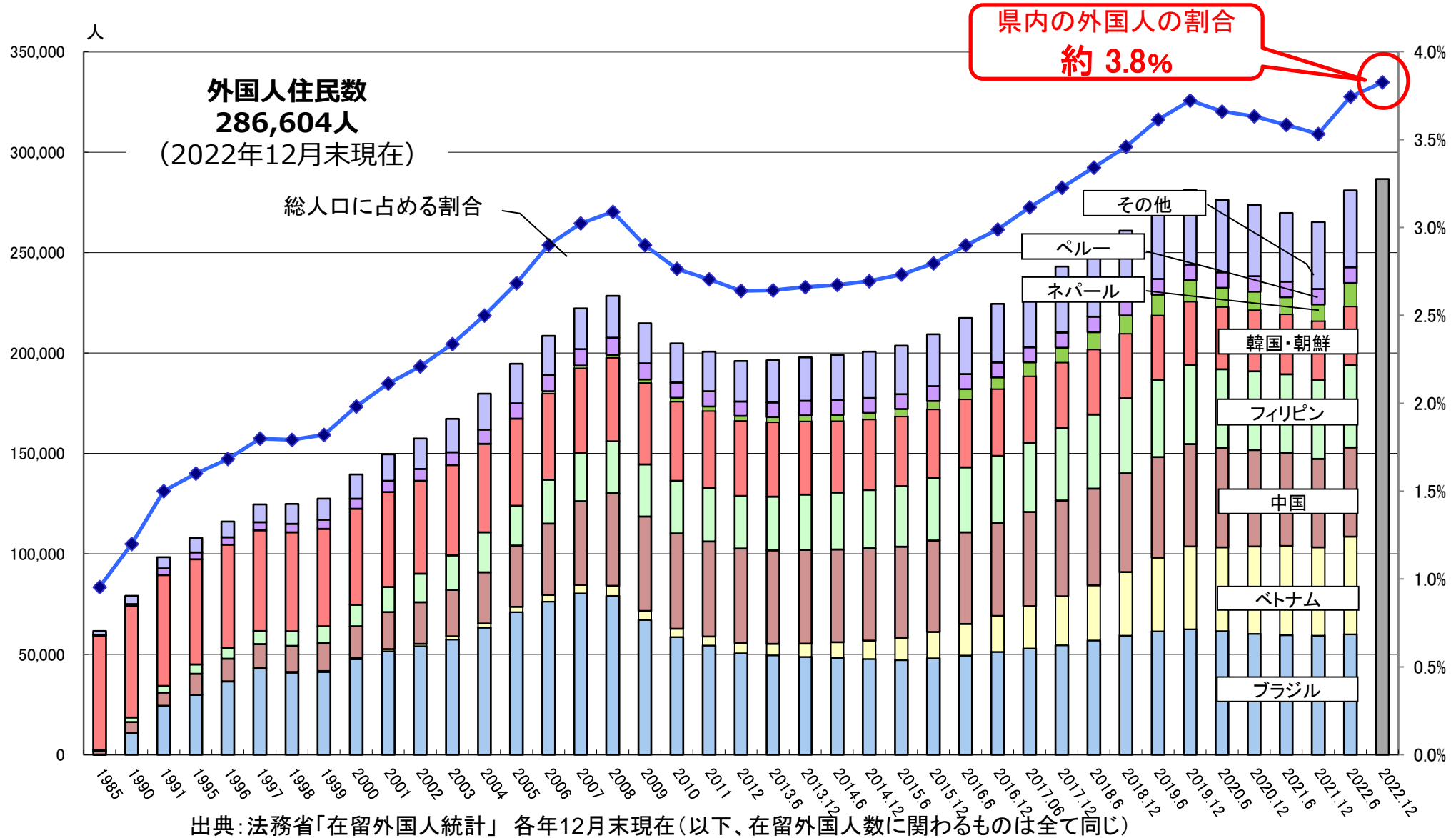
2023年4月25日
愛知県多文化共生推進室

本日の内容

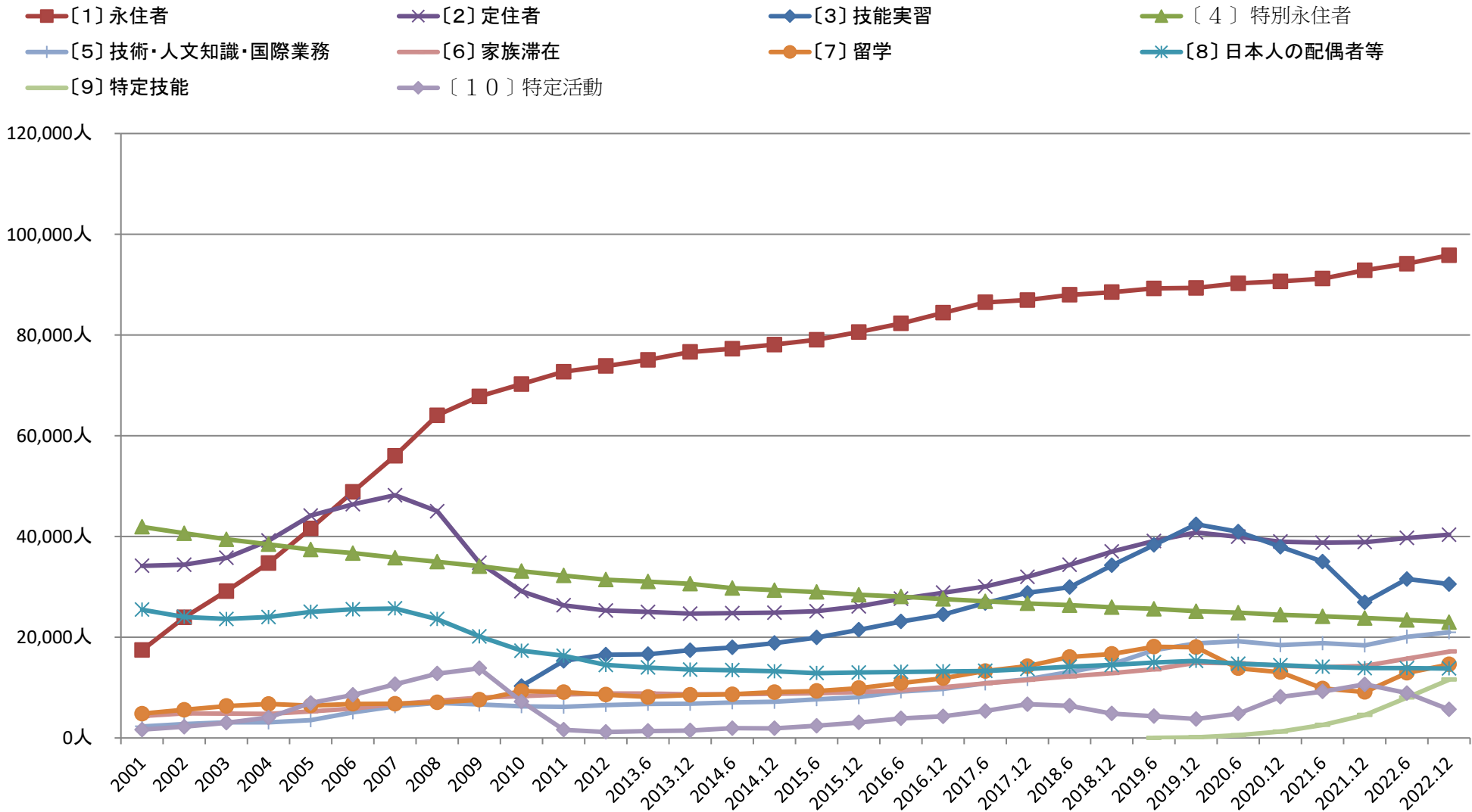
1. 愛知県の外国人住民の状況
2. 多文化共生を推進する上での課題
3. 第4次あいち多文化共生推進プランの策定
4. テーマ別 愛知県の取組

1. 愛知県の外国人住民の状況

外国人住民数の推移(国籍別)

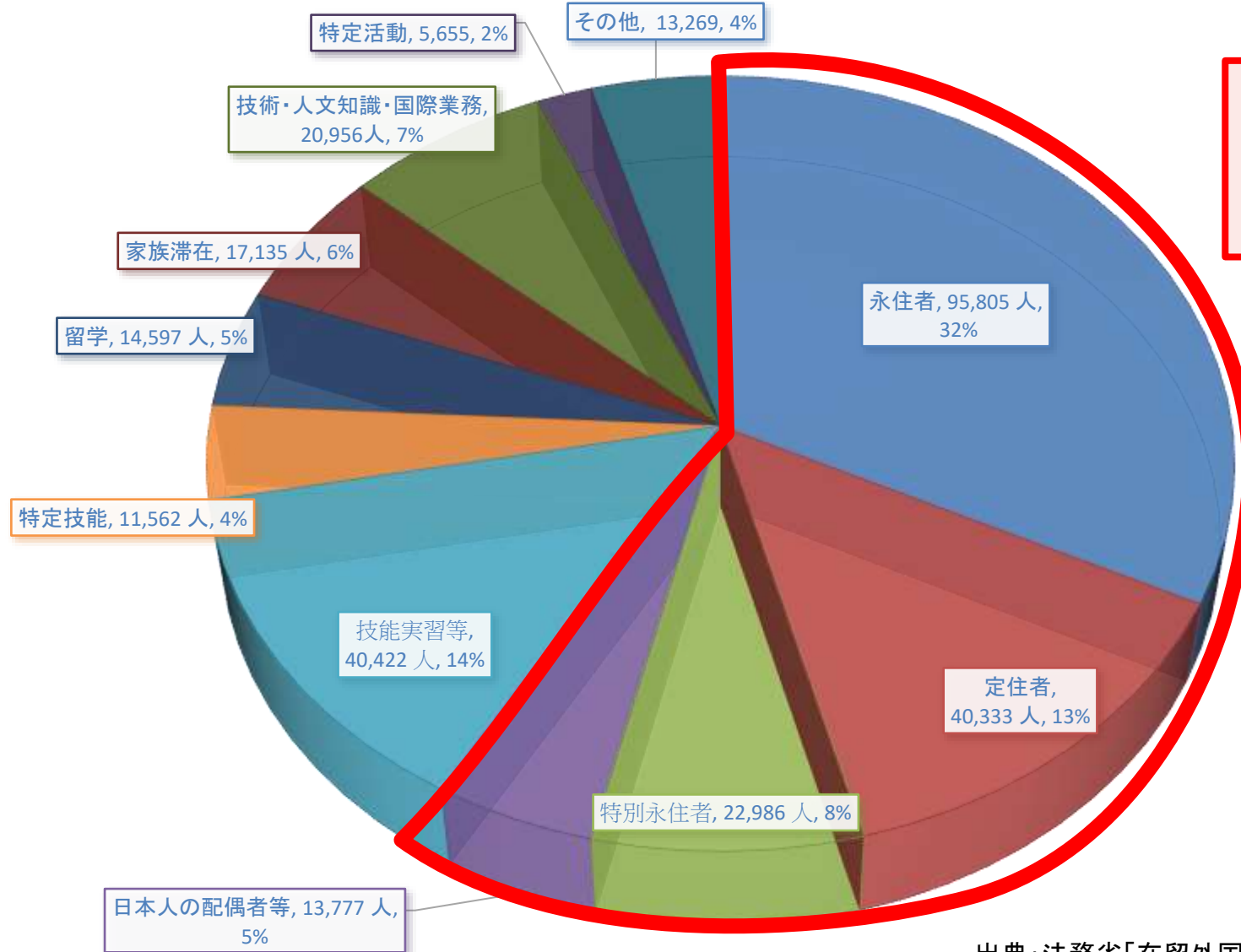


外国人住民数の推移(在留資格別)



出典: 法務省「在留外国人統計」 2012年までは各年12月末現在

在留資格別 外国住民数と割合



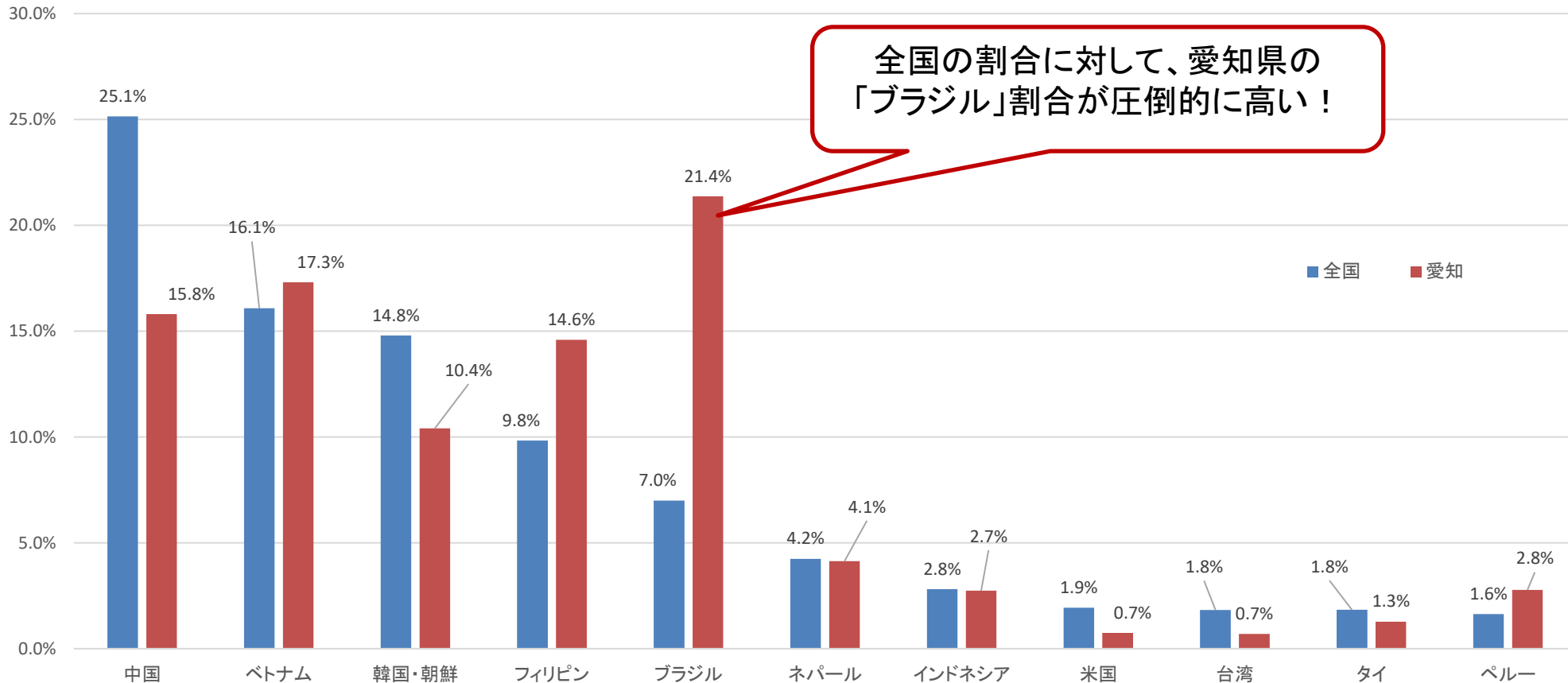
約6割が永住傾向

在留外国人の国籍別割合比較

(2022年6月末現在)

全 国: 2,961,969人(人口比2.37%)

愛知県: 280,912人(人口比3.74%)



全国の割合に対して、愛知県の「ブラジル」割合が圧倒的に高い！

1. 愛知県の外国人住民の状況

都道府県別 在留外国人人数(2022年12月末現在)

順位	都道府県	在留外国人人数	全国に占める 構成比
1位	東京都	596,148	19.4%
2位	愛知県	286,604	9.3%
3位	大阪府	272,449	8.9%
4位	神奈川県	245,790	8.0%
5位	埼玉県	212,624	7.0%

全国的にみて愛知県に多い国籍(2022年6月末現在)

国 籍	順 位	人 数	全国に占める 構成比	備 考
ブラジル	1位	60,014	29.0%	2位: 静岡 30,886
ベトナム	1位	48,608	10.2%	2位: 大坂 45,344
フィリピン	1位	40,983	14.1%	2位: 東京 33,941
ペルー	1位	7,788	16.0%	2位: 神奈川 6,451
インドネシア	1位	7,712	9.3%	2位: 東京 6,509
ネパール	2位	11,601	9.2%	1位: 東京 26,643
カンボジア	2位	1,484	8.1%	1位: 神奈川 2,488

※日本全体で1万人以上在留する国籍のうち、本県が全国2位以上の国籍を抽出

市町村別 外国人住民の状況

在留外国人数		
1	名古屋市	86,043
2	豊橋市	19,716
3	豊田市	18,935
4	岡崎市	12,909
5	西尾市	10,680
6	小牧市	10,549
7	春日井市	8,291
8	安城市	7,910
9	一宮市	7,418
10	豊川市	7,403
11	碧南市	6,061

外国人が多い地域
=人口比が高いわけ
ではない

むしろ規模の小さい地域(地価や物
価の高くない地域)
に集住している

人口に占める割合		
1	高浜市	9.19%
2	碧南市	8.39%
3	飛島村	8.15%
4	知立市	7.79%
5	小牧市	7.16%
6	西尾市	6.35%
7	岩倉市	5.95%
8	豊橋市	5.36%
9	弥富市	5.22%
10	豊明市	5.20%

出典:法務省「在留外国人統計(2022年6月末現在)」

<https://www.pref.aichi.jp/syakaikatsudo/tabunka.html>

様々な外国人①

➤ 入国時期の違い

1910年代 韓国・朝鮮

1980年代 中国帰国者
フィリピン

パキスタン、バングラディッシュ、イラン

1990年代 日系ブラジル人等

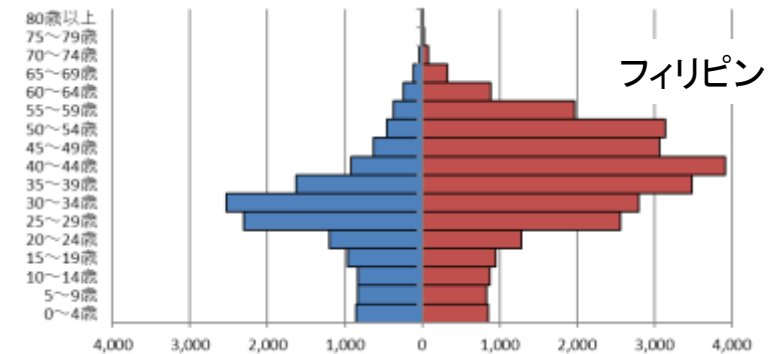
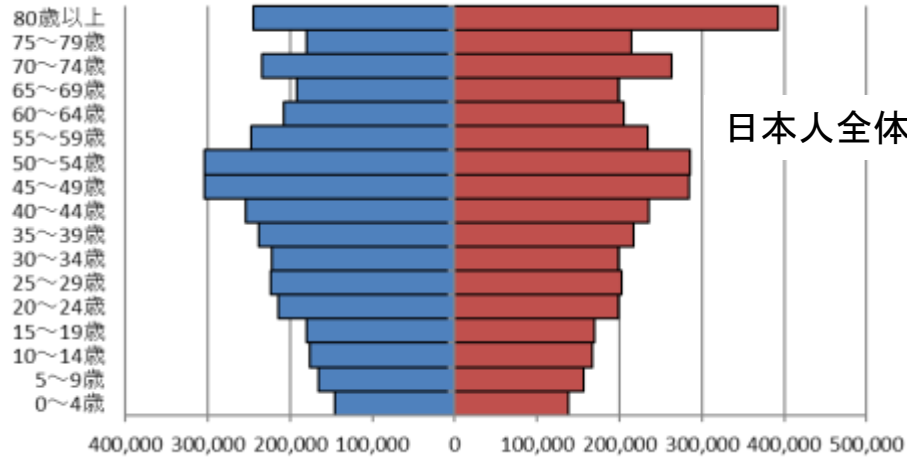
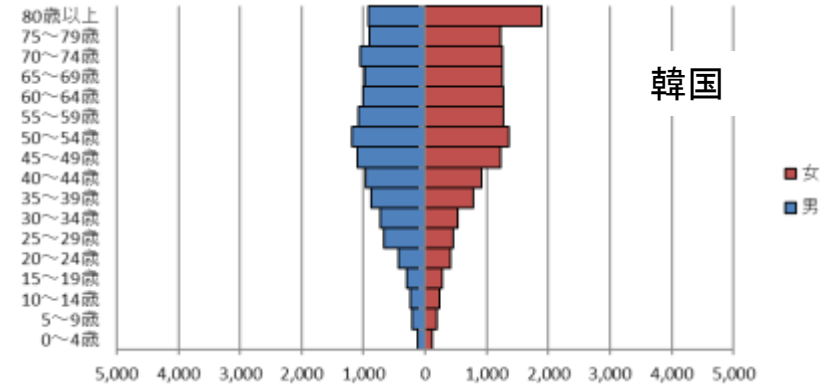
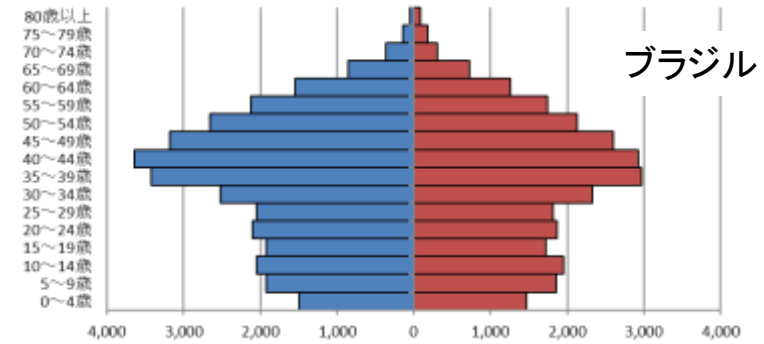
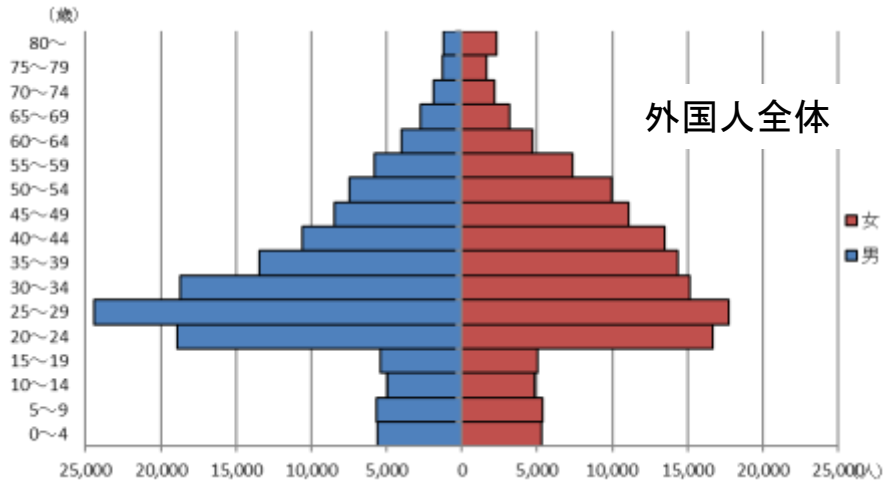
現在 中国、フィリピン

→ ベトナム、ネパール など

* 入国時期の違いによって年齢構成が違う

1. 愛知県の外国人住民の状況

外国人住民人口ピラミッド



多文化共生とは

「国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らし活躍できる地域社会」

～第4次あいち多文化共生推進プラン～

<類義語>

- **多文化主義** 異なる文化を持つ集団が存在する社会において、それぞれの集団が「対等な立場で」扱われるべきだという考え方または政策
- **インターカルチュラル・シティ** 移住者や少数者によってもたらされる文化的多様性を、脅威ではなくむしろ「好機」ととらえ、都市の活力や革新、創造、成長の源泉とする新しい都市政策

3つの壁

* 言葉の壁

- ・言語の違いにより生じる、コミュニケーションの課題
- ・学校や職場だけでなく、家庭でも起こる

* 制度の壁

- ・選挙に参加することができない
- ・公務員になっても管理職に就けないなどの公的制度に制限がある

* 心の壁

- ・外国人に対する差別や偏見
- ・文化や慣習の違いによる誤解など

言葉の壁①

例えば医療の現場では・・・

- 日本語がわかる患者の場合の問題点

- どの程度「わかる」のか、病気の際にきちんと日本語を理解できるのか
- 日本語がわからない患者より少しわかる患者の方がトラブルが多い

- 日本語のわかる知り合いを連れて行く場合の問題点

- 患者にとって知られたくないことを知られてしまう
- 患者に同情して伝えるべきことを伝えない
- 通訳技術はあるのか
- きちんと通訳のできる人は限られていて、その人に集中してしまう

言葉の壁②

例えば医療の現場では・・・

- 日本語のわかる子どもを連れて行く場合の問題点
 - 親の病気を知ることになる
 - 学校を休むことになる
 - どの程度「わかる」のか
 - 通訳技術はあるのか
- それ以外の患者の場合
 - そもそも医療機関にアクセスできない。見えない存在

言葉の壁③

<高コンテキスト／低コンテキスト>

○低コンテキスト（欧米文化）

言葉に表現された内容のみが、情報として理解する（させる）コミュニケーション

(例)

母親
太郎

「おつかいに行ってきてくれない？」

「今、外は大雨だから行きたくないよ」

言葉の壁④

<高コンテキスト／低コンテキスト>

○高コンテキスト（日本文化）

すべてを言葉にしなくて、理解する（させる）コミュニケーション

(例)

母親 「おつかいに行ってきてくれない？」

太郎 「今、外は大雨だよ」

言葉の壁⑤

<高コンテキスト／低コンテキスト>

お母さんの頼みごとに対する拒否、つまり、“おつかいには行けない”とか“行きたくない”といったことを直接言わずに表現しています。

伝えたいこと＝

「ことば」 × 「状況・コンテキスト」

言葉の壁⑥

<高コンテキスト／低コンテキスト>

医者 「それではしばらく様子を見ましょう」

医療通訳研究会(MEDINT)ブログから

Aさんは、少し日本語ができます。ある日おなかが痛くてB病院に行きました。医師は痛み止めの薬を出して「様子を見ましょう」といいました。そのとき、Aさんは、この医師に見放されたような気がしました。原因もわからないのに薬だけ渡されて、何か重大な病気だったらどうしようと悩みました。

だから2日たっても痛みが治まらないので、C病院に行きました。C病院でも同じように何か薬をくれて「様子を見ましょう」といわれました。Aさんは、失望して、病院に行くのを辞めました。結局、仕事中に痛みを耐え切れず急性虫垂炎で救急車で運ばれました。

無事に手術も終わったAさんと話していると、Aさんの中にB病院にもC病院にも診断を下せなかったことへの憤りを感じられました。そこで思ったことは、医師が使う「様子を見ましょう」がどこまで本人に伝わっていたかということです。

調子がよくならなければ違う角度から検査を試みるので、再来院するようにとのメッセージが伝わっていませんでした。

文化の違いに気づくために 各国の文化に関する知識を

- 各国の文化の全体傾向を知識として習得しておくのと、文化の違いに気づきやすくなるかもしれません。
- ただし、「人それぞれ」です。出身国の文化は全体傾向としては言えるものの、個人にそのまま当てはまるものではありません。

3. 第4次あいち多文化共生推進プランの策定

あいち多文化共生推進プラン
2008年3月策定



あいち多文化共生推進プラン
2013-2017
2013年3月策定



あいち多文化共生推進プラン
2022
2018年3月策定



第4次あいち多文化共生推進プラン
2023-2027
2022年12月策定

4つの施策体形

I コミュニケーション支援

日本語教育、やさしい日本語を含めた多言語対応の推進など

II 生活支援

ライフサイクルに応じた継続的な支援、防災や医療等、生活へのリスクに対応する体制の整備など

III 意識啓発と社会参画支援

外国人県民と日本人県民の相互理解促進に向けた啓発活動や外国人県民が地域社会の一員として主体的に参加できる環境の整備など

IV 地域活性化の推進やグローバル化への対応

外国人県民と日本人県民の連携・協働による地域の活性化とグローバル化の促進

3. 第4次あいち多文化共生推進プランの策定

ライフサイクル図 この図は、施策体系の大項目「Ⅰコミュニケーション支援」と「Ⅱ生活支援」に関する主な施策をライフサイクルに沿って示したものです。



子ども・子育て家庭への支援

あいち医療通訳システムの普及

施策体系の大項目「Ⅲ 意識啓発と社会参画支援」と「Ⅳ 地域活性化の推進やグローバル化への対応」については、ライフサイクルの各年代に共通して取り組んでいきます。

あいち地域日本語教育推進センターの設置

【背景】

- 「日本語教育の推進に関する法律」の制定
(2019年6月) 議員立法
- 文化庁の助成
→ 「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」(2019年度～)

○2020年4月「あいち地域日本語教育推進センター」を多文化共生推進室内に設置

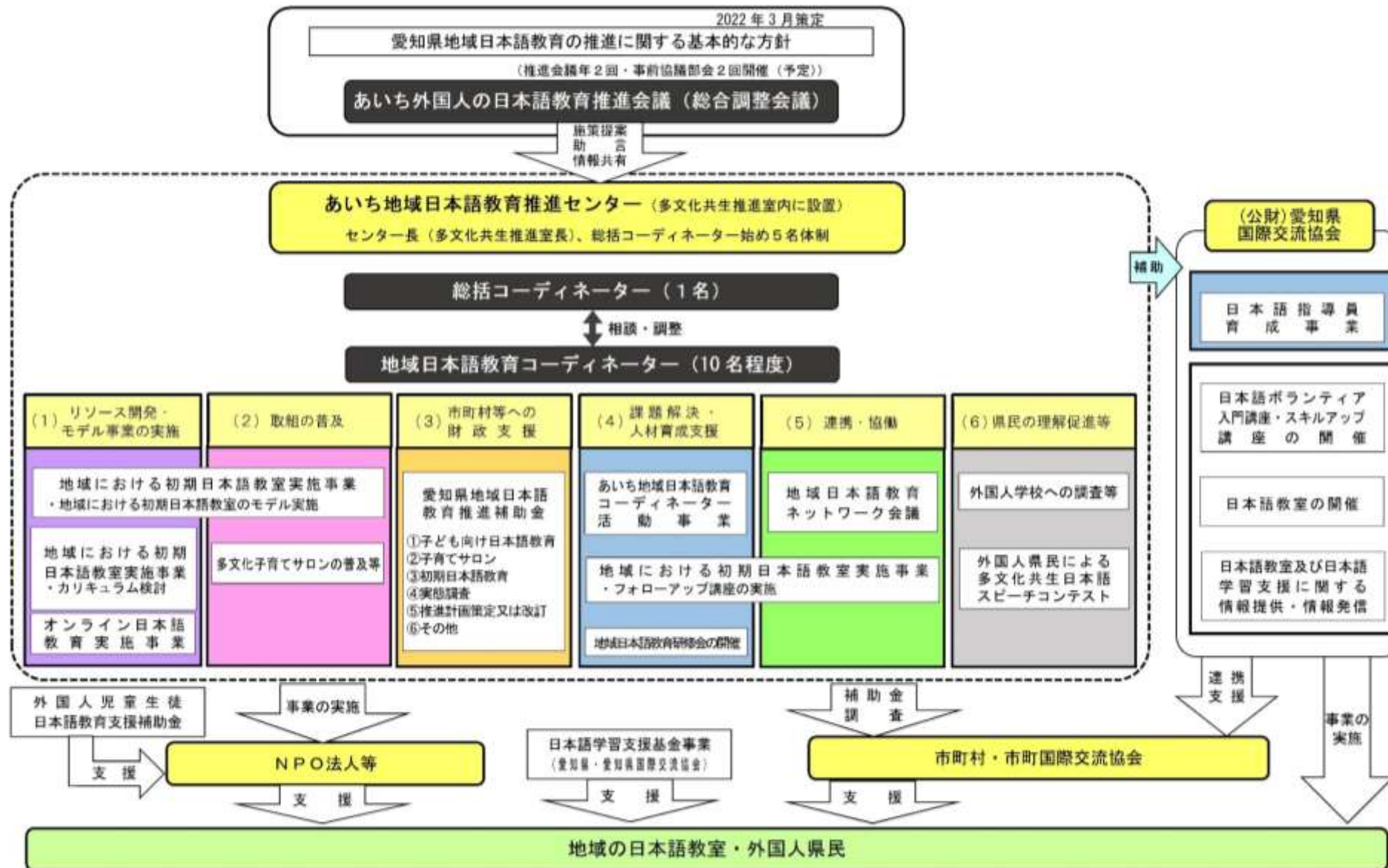


【開設式】2020年4月3日

4. テーマ別 愛知県の取組

I コミュニケーション支援: 日本語

あいち地域日本語教育推進センターを中心とした 日本語教育の推進に係る実施体制図



※(1)～(6)は、「愛知県地域日本語教育の推進に関する基本的な方針」における施策の方向性の柱

あいち地域日本語教育推進センターの運営

「あいち地域日本語教育推進センター」では、「総括コーディネーター」の下で、県内市町村やNPO法人等関係機関と連携しながら、地域日本語教育に関する施策を推進しています。

◆【総括コーディネーター】 1名

地域日本語教育の専門的な知識に基づき、県内各地域で活動する「地域日本語教育コーディネーター」に対する指導・助言、関係者の調整、広報活動等を行います。**地域日本語教育の司令塔！**

◆【地域日本語教育コーディネーター】 10名程度

総括コーディネーターと共に、地域や外国人の特性等に対応した教育プログラムを構想し、地域日本語教育関係者と意見交換をしながら、情報提供や助言を行います。（NPO代表者等に委嘱）

◆日本語教育の総合的な体制づくりのため、県内の**市町村等**に対して「**愛知県地域日本語教育推進補助金**」により、必要な経費の一部を補助。



地域日本語教育コーディネーター派遣の取組状況

地域における「初期日本語教室」等のモデル実施

初期日本語教育の愛知モデルである“あいち初期日本語教育プログラム”をつくり、地域での外国人受入れのための社会的な基盤づくりを目指しています。

○日本語がほとんど話せない外国人県民が簡単な日常会話やひらがななど基本的な日本語を学ぶ

「初期の日本語教室」を、市町村や地域のボランティアの日本語教室と連携して実施。

○指導者となる人材の養成講座の実施。



「はじめての日本語教室」では参加者が交流しながら、外国人住民は日本語を、日本人住民はコミュニケーション方法を学びます。



「指導者養成講座」では多文化共生につながる日本語教室での支援を学びます。

地域日本語教育の推進に向けたその他の取組

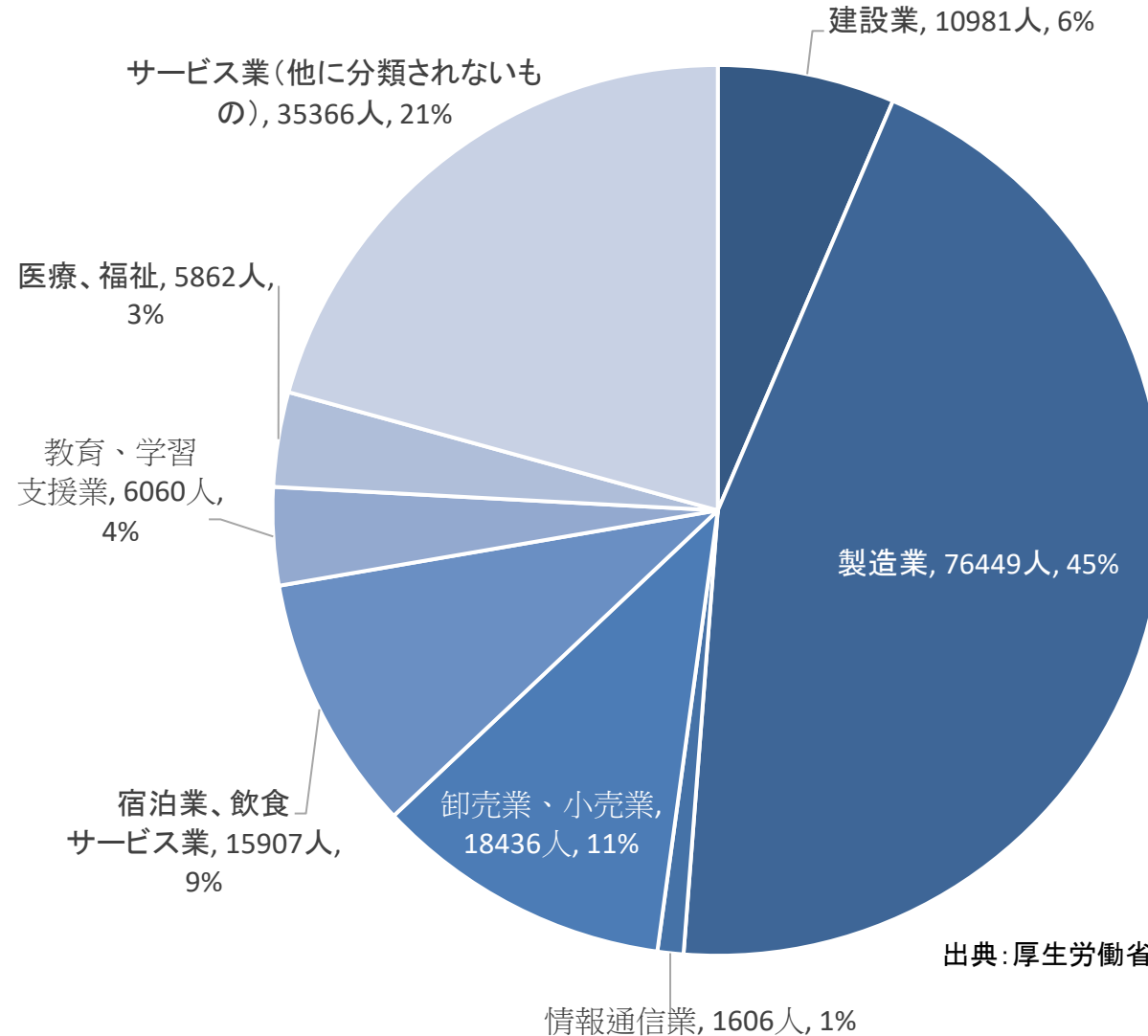
- 多文化共生日本語スピーチコンテストの開催
- 愛知県地域日本語教育推進補助金
- 外国人児童生徒日本語教育支援（広域バス運行）補助金
- 多文化子育てサロン、プレスクール等（プレスクール、母語支援、進路情報等）の普及
- 日本語学習支援基金による助成（事務局：公益財団法人愛知県国際交流協会）

産官連携による地域日本語教室支援活動

産官が連携して育成した地元企業の社員ボランティアによる地域の日本語教室支援活動を通じ、地元企業による外国人の子どもたちへの多面的なサポートとその仕組みづくりに取り組んでいます。

- 県と地元企業が連携・協力して地域日本語教室の支援に取り組むため、2022年10月に、愛知県経営者協会、中部経済連合会、愛知県及び愛知県国際交流協会の4者で運営委員会を設置。
- 産官連携の取組として、企業ボランティアによる地域の日本語教室の支援活動を試行的に実施。
- 地元企業の社員に対し、「地域日本語教室ボランティア研修会」を開催した後、県内の日本語教室で、支援活動を行う。

愛知県の外国人労働者(産業別)



愛知県の外国人
労働者数
188,691人

出典:厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況」2022年10月末現在

外国人労働者に関する憲章の普及啓発

東海三県一市と下記の地元経済団体は協力して、この地域の経済を支える外国人労働者の適正雇用と日本社会への適応を促進するための呼びかけを行うこととし、憲章を制定（2008年（平成20年）1月）。

以降、憲章普及セミナー等を通じて、各企業・事業所へ周知。

外国人労働者に関する憲章

外国人労働者は日本社会のルールを十分理解するよう努めることとし、企業は彼らの多様性にも配慮しながら、安全で働きやすい職場環境の確保をはじめとする以下の諸項目に自主的に取り組むこととする。

1. 外国人労働者の日本社会への適応促進を図るため、彼らに対して日本語教育及び日本の文化や慣習等についての理解を深める機会を提供するよう努める。
2. 外国人労働者及びその家族が地域の住民と共生できるよう、彼らの地域社会参画の機会の確保に努める。
3. 外国人労働者の子どもが将来の日本社会あるいは母国社会を支える存在となることを考慮し、子どもの社会的自立を図るため、外国人労働者が保護者としての責任を果たすことができるよう努める。
4. 外国人労働者が日本人労働者と同様、公正かつ良好な労働条件を享受できるよう、彼らを雇用する場合、労働関係法令等の遵守に努める。
5. 法令遵守の観点を取り入れながら調達先・取引先を選定するよう努める。
6. 本憲章の理念を尊重し、社内、グループ企業及び取引先に周知するよう努める。

医療支援の必要性について

○ 外国人への意識調査（2021年度実施）

【日常生活で日本語で困る場面】

第1位「病気になったとき」（32%）

→現在、在住している外国人は、永住志向が強い人が多い

→日本語能力が十分でないことなどから、教育・労働・医療などの生活環境に不安を感じている



安心して暮らすために、医療通訳が必要

あいち医療通訳システムの運営

県内の医療機関に通訳派遣や電話通訳を提供するしくみである「あいち医療通訳システム」を運営し、外国人県民が安心して医療機関等を受診できるようにしています。

- ◆2011年度から試行的に運用を開始し、2012年度から本格実施
- ◆医療機関、保健所・保健センター等からの依頼に応じて、通訳派遣や電話通訳等を実施。

※通訳派遣・文書翻訳の対応言語は13言語
※電話通訳の対応言語は7言語



<通訳派遣の様子(イメージ)>



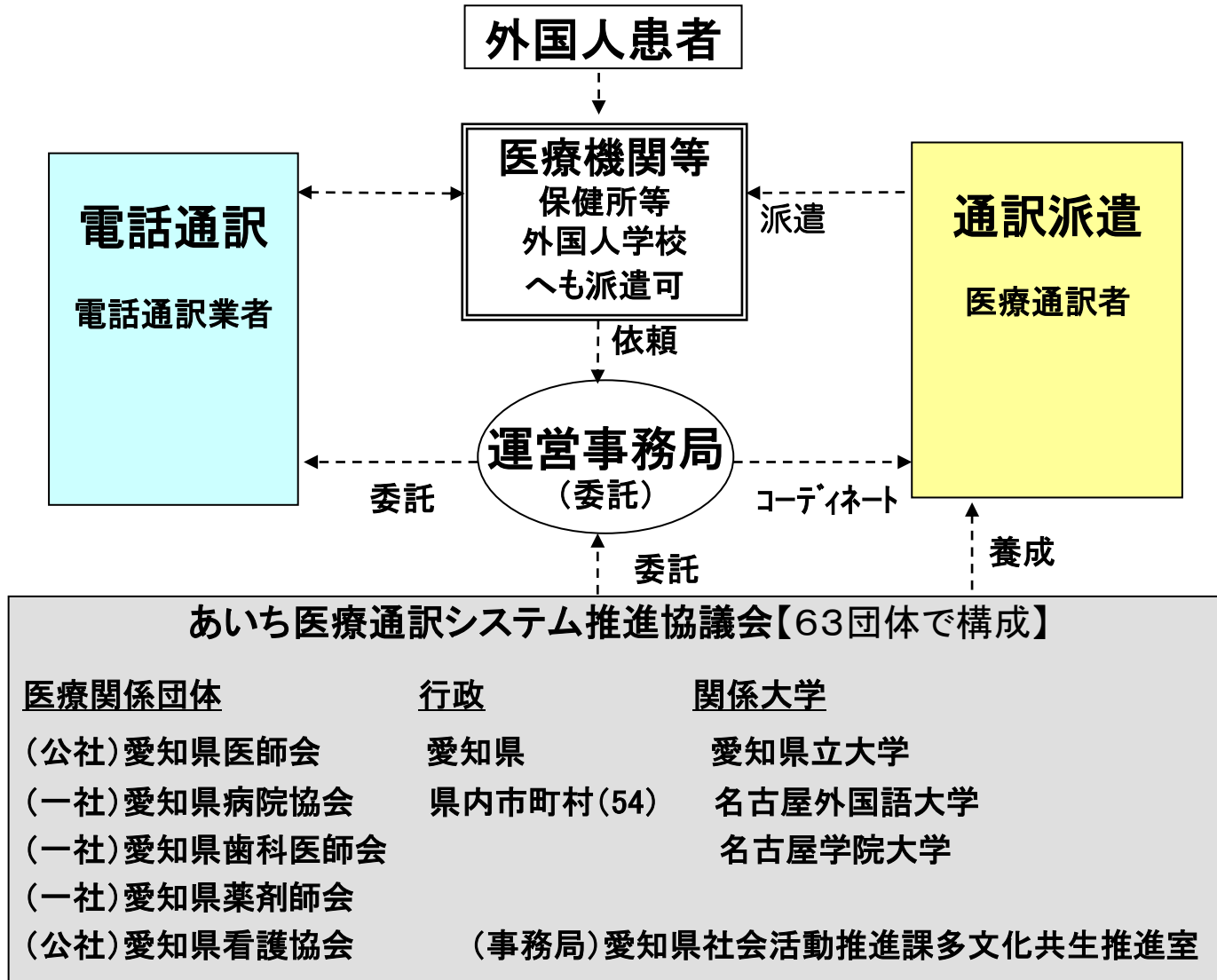
<広報用キャラクター やくすくん>



<あいち医療通訳システムWebページ>

Ⅱ 生活支援:医療

あいち医療通訳システムの運営体制



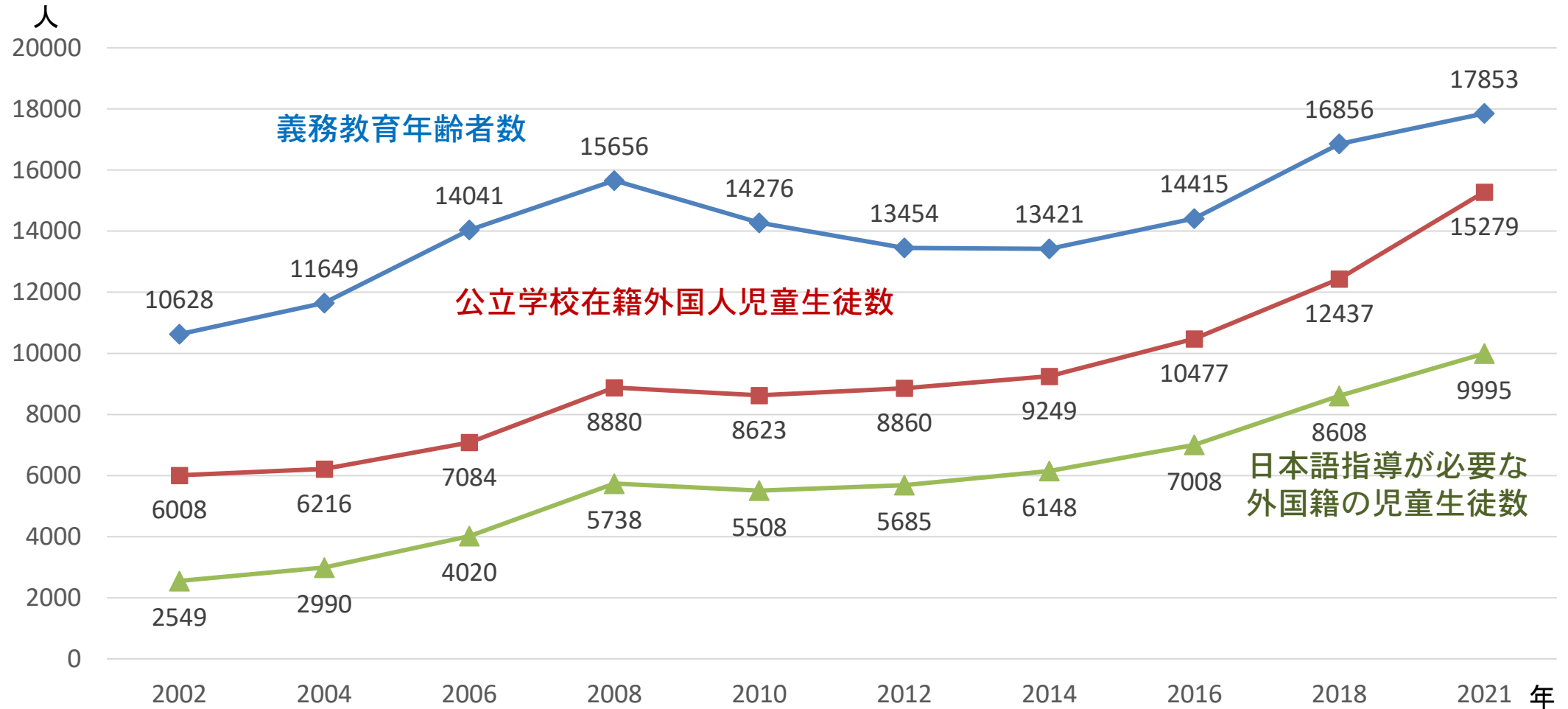
4. テーマ別 愛知県の取組

Ⅱ 生活支援:医療

【あいち医療通訳システム利用実績】

	2011年度 試行的運用 (10/1～ 3/30)	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
参加医療 機関等数	54	66	69	86	106	112	128	134	146	151	157	157
通訳養成 人数	89人	65人	63人	37人	9人	2人	11人	12人	6人	12人	4人	12人
通訳派遣 件数	325件	464 件	622 件	791件	982件	1,279 件	1,174 件	1,303 件	1,192 件	1,058 件	1,019 件	1,012 件
電話通訳 件数	137件	263 件	317 件	441件	488件	543件	563件	615件	498件	566件	2,851 件	331件
翻訳件数	14件	31件	42件	42件	56件	77件	45件	83件	151件	122件	171件	174件
計	476件	758 件	981 件	1,274 件	1,526 件	1,899 件	1,782 件	2,001 件	1,821 件	1,746 件	4,041 件	1,517 件

公立小中学校における外国人児童生徒数



(資料出所) ・義務教育年齢者数:法務省「在留外国人統計」による推計値
 ・公立学校在籍外国人児童生徒数:文部科学省「学校基本調査」
 ・日本語指導が必要な児童生徒数:文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入状況等に関する調査」

学校現場での主な取組

- 語学相談員の派遣

外国人生徒等の在籍する小中学校へ語学相談員を派遣し、日本語初期指導の補助や母語による生活適応相談などの支援を行う。

配置人数：ポルトガル語 4人、スペイン語 3人、フィリピン語 4人

- 日本語教育適応学級担当教員の配置

小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人生徒等の学習支援を行うため、在籍人数に応じて日本語教育適応教員を配置。

配置人数：547人

- 外国人生徒等教育支援員の配置（高等学校）

日本語によるコミュニケーション能力が十分に身に付いていない外国人生徒等の学校生活をサポートする教育支援員を県立学校へ配置します。

ウクライナ避難民支援について

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、ウクライナからの避難を余儀なくされ、愛知県内で避難生活を送られる方々の支援を行っています。

○避難者数：65世帯107名（2023年4月1日時点）

○支援内容：生活一時金の支給

日本語学習の支援

（オンライン日本語教室の開催、タブレットの貸与、プリペイドSIMカードの支給）

寄付物品の受付・配送

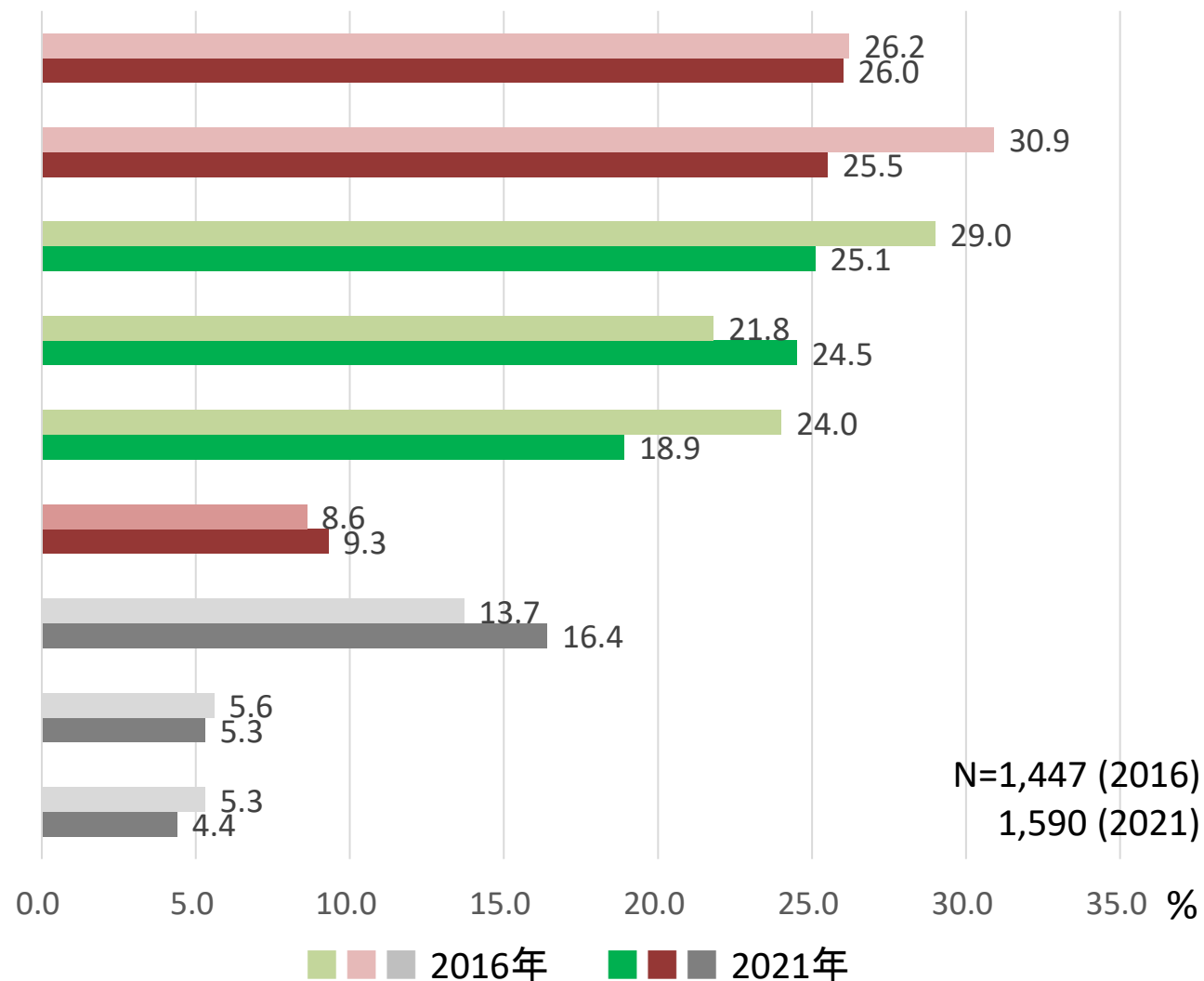
○生活一時金やプリペイドSIMカードの支給は、寄附金を活用して実施。

今年度も寄付を募集中です。
詳しくはこちらから



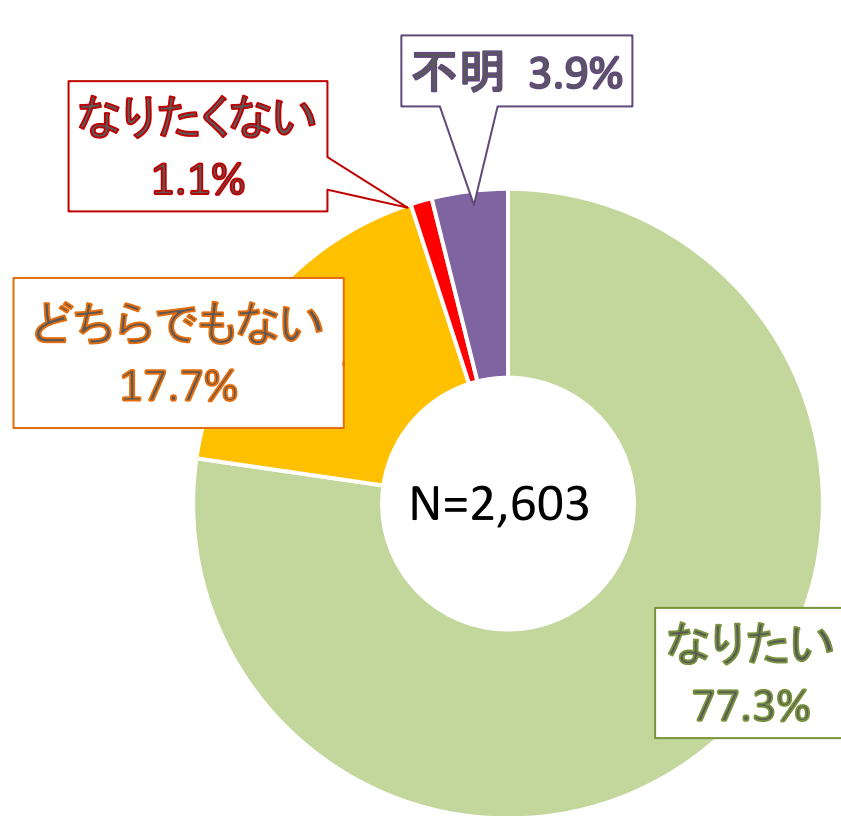
Q. あなたは、外国人住民が多いことについてどう思いますか。【複数回答】

- 習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こるおそれがあるので、**望ましくない**
- 治安が悪化するおそれがあるので、**望ましくない**
- 外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、**望ましい**
- 地域の経済的な発展の維持につながり、**望ましい**
- 地域で外国人と交流できるので、**望ましい**
- 日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるおそれがあるので、**望ましくない**
- わからない
- その他
- 無回答

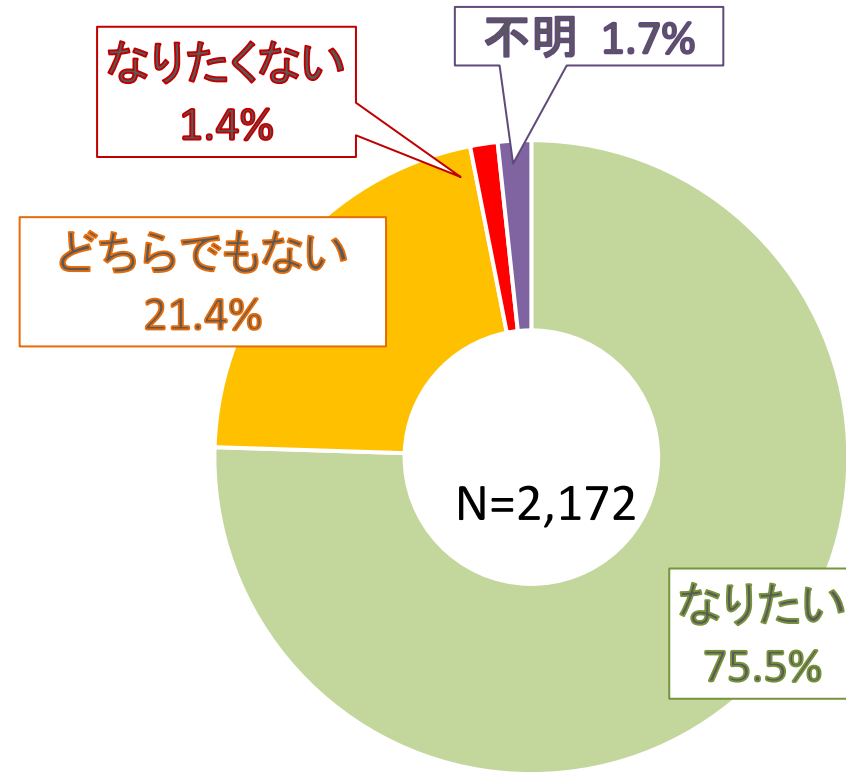


Q. もっと日本人と仲良くなりたいか？

最後に②



2016年



2021年

(資料) 愛知県「愛知県外国人県民アンケート調査」(2016年度)
(資料) 愛知県「愛知県外国人県民アンケート調査」(2021年度)

- ホームページ

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka>



- フェイスブック

<https://www.facebook.com/100449016173666/>



- メールアドレス

tabunka@pref.aichi.lg.jp



愛知県多文化共生
シンボルマーク

外国人にやさしい社会は日本人にとってもやさしい社会です。
多文化共生社会の実現に向け、皆様のご活躍を期待しています。